

さいたま市立大原中学校 学校だより



新しき光



さいたま市立大原中学校

TEL 048-831-5397 FAX 048-835-1357

WEB <https://ohara-j.saitama-city.ed.jp/>

第3号

校訓「歴史を拓く」 学校教育目標「はつらつとした生徒、地域に輝く学校」

令和7年5月30日発行

国際性の基調

校長 越智 宏明

5月19日から21日まで、3年生が2泊3日の修学旅行で、古の都、京都、奈良へ行ってきました。実際に生の目で見る奈良の大仏の荘厳さ、金閣寺の煌びやかさなど、生徒の心に大きな刺激となったことでしょう。また、京都も奈良もたくさんの訪日外国人の方で溢れ、日本の国際化が進んでいることを肌で実感したと思います。

その修学旅行で、印象的な二つのエピソードをお話します。

一つ目は、初日、生徒たちが班ごとに、奈良から京都の宿舎に向かう際、一人の男子生徒が(おそらく軽い熱中症だったのでしょう)体調不良を訴え、途中の駅で班員と共に下車し、駅で休んでいるとの報告が入りました。たまたま私がその数駅手前まで来ていたため、様子を見に行くことに…。

生徒は駅の事務室で休ませてもらっていました。私は、一緒にいた他の班員に、先に次の目的地に向かうよう指示しました。しばらくして、体調が回復したのか、彼は再び班に合流したいと申し出てきたのです。そこで次の目的地である清水寺まで私が送り届けることにしました。駅員さんにいただいた保冷剤を首に当てたまま、京都駅行きの電車に乗り込みました。

電車はやや混んでいて、我々は車内で立っていました。しかし、男子生徒の顔はまだ赤く、やや体も前のめりになりながら、必死で吊り革を掴んでいます。すると突然、目の前に座っていた大学生位の若い女性が「よろしかったらお座りください」と席を譲ってくれたのです。私がお礼を言うと、「いえ、私はすぐ降りますので…」と言ってさりげなく離れたドアへ向かいました。まだしんどさが残っていたのでしょう、男子生徒は安心した様子で席に腰を下ろしました。その後、彼は予定どおり他の生徒たちと合流し、楽しく班活動が続けることが出来ましたが、その影に、席を譲ってくれた女性のさりげない優しさがあったことを覚えておいてほしいと思います。

二つ目のエピソードは、最終日のことです。ここまで順調に日程をこなし、東京へ向かう新幹線に乗り込んだ大原中生一行でしたが、最後の最後、東京駅前でトラブル発生!何と京浜東北線が全線で運転を見合わせていたのです。急遽上野東京ラインに乗り換え、浦和駅で解散とするプランに変更。新幹線の中で担任から生徒に予定の変更を伝え、班ごとに上野東京ラインのホームに移動することに…。

夕方の帰宅ラッシュ直前の時間帯であったことに加え、京浜東北線が運転を見合わせていたということもあり、電車は既にかかなり混雑していました。しかし生徒たちは不平を言うこともなく、落ち着いて、順序よく乗り込むことが出来ました。ある者は座席に座り、ある者は吊り革につかまりとバラバラに散って、めいめい浦和を目指したのです。そんな中、座席に座っていた、一人の女子生徒が、離れた場所に立っているお婆さんの具合が悪そうなことに気付きました。彼女はためらうことなくそのお婆さんのもとに向かい、自分が座っていた席へと案内したのです。

翌日、そのお婆さんから学校に感謝のお電話をいただきました。その時かなりお疲れだったそうで、生徒の優しさが本当に嬉しかったそうです。

哲学者の今道友信さんが、終戦直後、フランスのパリに留学した際の話。その頃は彼が日本人であるというだけの理由で下宿を断られたり、心ない言葉をかけられたりしたそうです。また、貧乏学生だった今道さんは、食事を摂るお金も満足になく、近所のレストランで一番値のほらないオムレツだけを頼んで空腹を満たしていました。ある寒い夜、いつものようにオムレツだけを頼んだ今道さんに、レストランの女主人が温かいオニオングラタンのスープを持って近寄ってきました。「お客様の注文を取り違えて余ってしまいました。よろしかったら召し上がっていただけませんか」。店内に他に客の姿はなく、今道さんはすぐに女主人の意図を理解しました。彼は溢れる涙を悟られぬよう、そのスープを一さじ一さじ、かむようにして味わったそうです。

今道さんは、自身の著書の中で、こう語っています。

「国際性、国際性とやかましく言われているが、その基本は、流れるような外国語の能力やきらびやかな学芸の才や事業のスケールの大ききさなのではない。それは、相手の立場を思いやる優しさ、お互いが人類の仲間であるという自覚なのである。その典型になるのが、名もない行きずりの外国人の私に、口ごもり恥じらいながら示してくれたあの人たちの無償の愛である。求めるところのない隣人愛としての人類愛、これこそが国際性の基調である。そうであるとすれば、一人一人の平凡な日常の中で、それは試されているのだ。(今道友信『温かいスープ』)」

前述のとおり、生徒たちは、今回の修学旅行で、日本の国際化について、身をもって感じてきたことと思いますが、私は、今道さんの言う「国際性の基調」について逆に、生徒たちの行動から教えてもらった3日間となりました。



修学旅行1日目。奈良公園にて。生徒たちにとっては見るもの聞くこと全てが新鮮で、古(いにしえ)の文化を満喫した3日間となりました。